

令和5年度 尼崎理容美容専門学校 学校評価委員会

令和6年5月27日(月)

尼崎理容美容専門学校

学校関係者評価委員

- ・黒川 治氏 : 兵庫県議会議員
- ・林 久博氏 : 尼崎市議会議員
- ・築地美彩紀氏 : 尼崎商工会議所 共済担当
- ・上部 幹男氏 : 元尼崎保健所職員

学校評価にかかわる常勤の教職員

- ・半田 一朗 : 理事長
- ・大脇 展子 : 学校長
- ・角野 義博 : 人事・総務部部長
- ・絹川 俊行 : 広報部部長
- ・節安 徹 : 教務部部長

評価項目ごとの関係者評価・意見

(1) 教育理念・目標

本校では在学中に多くの資格を取得できるということを掲げており、卒業までに少なくとも2つの資格を取得できるということになっている。学生たちも資格取得に関して意欲的に真剣に取り組んでいる。有料となるセミナーに通ってでも技術を習得したいという学生が多数居る。2年前から大きくカリキュラムを変更して、現場サイドとしてはより学びに向かっていくようになったと感じている。

本当に願うのは自分たちで考え、行動が出来る人材を育てるということ。ただし甘えたの学生が多いのも事実。「やってくれるだろう」「教えてくれるだろう」という受け身の学生が多い。

2年生になれば就職や卒業が目の前になり、1年次の教え方と2年生になってからの指導方法を変えていく必要がある。学生自らが自分自身の先のことを考えられるように…。突き放すではないが、自分の頭で考えて行動ができる学生を育てるように教職員としてはしていかなければならない。

(2) 学校運営

業務の効率化に関しては難しい部分でもあると思う。システム障害などが発生してしまっただけにどう対処するかという課題もある。先に先に進み過ぎてもどうなんだろうという懸念材料はある。

企業内では情報システム化が進んでおり、常にアップデートしている状況。

(3) 教育活動

学科についてはリモート授業がメインで、最後の1回、2回だけ対面授業というのは正直なところ中途半端な感じがしている。それならばすべてリモート授業でも良いんじゃないか。対面授業をした意味がどうだったのかと疑問を感じている。

学生の気質についてもリモート授業がメインだとなかなか判断しづらい部分がある。リモート授業がスタートする以前はある程度つかめていたとも思うが。ここ数年は正直、分からない部分がある…。

専修学校、各種学校の現場で技術を身に着けるという意味では、なかなかリモート授業での対応は難しいのではと感じている。本校が令和5年度もリモート授業が主だったと聞いて少しびっくりしている。昨年5月に5類に移行したということで、通常の対面授業に戻ったのかと思っていたが…。

カリキュラムの変更については資格取得を積極的に促していくためだと認識している。

外部コンテストでの上位入賞を目指すという意味合いでのカリキュラム変更。もちろんそれ以外に実習系の授業もあり、学科もあるので学生たちはかなりタイトな日々になる。ただし、その状況が当たり前だとなってくると学生はちゃんとやるし、頑張っけて付いてくる。教職員である私たちが1か月先、3か月先、半年先の予定を前倒しで伝えると、学生も今何をしなければならぬか、ということを考える。教職員たちもそのように仕向けていく。まず目の前の何をしなければならぬか、その先に何をしなければならぬか…。目標がなければ学生はどうしてもサボってってしまう。この時期はこれを伝えて、来週はこれを伝えて、という形でできるだけ学生が退屈することのないようにと考えている。

最近の学生は失敗することをすごく怖がっている。なので「学生の間しか逆に失敗できないんだよ」と指導している。学生たちも「今はいっぱい失敗していいんだ」と分かると、ホッとした顔で「いいの?」と聞いてくる。これまでの中学、高校生活の中でそのように言ってもらったことがなかったんだと思う。本校は技術を上達させる学校。社会人になって働いていける自分自身になるためにも、学生の間いっぱい失敗してもらって、それで成長する部分もある。私たちが言い続けられないいけないのかなと思う。

教員の指導力の強化、研修の充実を図っていく必要がある。

(4) 学習成果

学科だけの学校ならばモチベーションを高めていくのは難しいかもしれないが、本校は実習系の授業もあり、実習系というのは自分で成果が見えやすい。昨日できなかったことが、今日できるようになったり、今までできなかったことが少しずつやっけていけるようになったりする。周りの友達からも「できるようになったね」などと言って

もらえると達成感が得られるのが特徴。学科もこのようになればいいかなと思うが、なかなか学科は難しい。学生がどれだけ物事を理解しているのかを我々が判断するために、手を変え、品を変えしていかなければいけないと常日頃から考えている。

ここ数年、美容ではアイリストが大きく注目されており、美容師免許がなければできない仕事の1つ。アイリストを目指す学生たちは美容技術が苦手だったりする。そんな学生たちには「国家試験に合格しなければアイリストとしての仕事ができない」ということを伝え、「アイリストになるためには免許が必要なんだ」ということを認識させている。ちょっとずつちょっとずつ、飴と鞭ではないですが、取り組むように向かわせている。

(5) 学生支援

現在、この地域でも小学校、中学校の生徒さんで不登校の人が多数いる。これは全国各地でいえること。リモート授業が充実すれば、充実するほど、不登校の生徒が増えるのではないかと危惧をしている。そんな中、特例校として「学びの多様化学校」が新設される予定。そこには勉強の苦手な生徒だけではなく、いわゆる頭の賢い生徒が集まる可能性もある。他の生徒と関わりたくない、同じ時間に登校したくないなどの理由が挙げられる。

その年代、年代で学生の気質は変わっていくので、教職員も悩みながら、学生と向き合っていくしかない。私たち教職員は生身の人間を教育している。学生と日々接していく中で何が必要で、どうすることが最善なのか、つかむことが一番大事。それを含んだ上で学生支援の方針を定めていくことが重要になる。

人見知りの激しい学生もおれば、話しかけても会話がなかなか成立しない学生も存在する。そんな学生でも時間をかけて解きほぐしていくと、卒業する頃にはコミュニケーションが取れるようになってくる。いろんな人間関係が構築されていく中で当然、合わない者や時にはケンカもある。そのような際にも私たち教職員が仲裁するのではなく、あくまでも見守る。最終的には学生たちで何とか解決する糸口を見つけてもらいたい。

どうしても学校やクラスメイトと馴染めないということで退学していく学生もいる。ただしここ数年、退学率は低くなっており、クラスの中で誰か一人でも手を差し伸べてくれる友達があれば状況はまた変わってくると思う。

コロナが落ち着いて本格的に令和5年度は行事・イベントが行えるようになった。やはり校内の活気が全然違う。教職員は大変だが学園祭やスポーツ大会の実施ほか、学期ごとに校内技術コンテストを行った。行事があると学生の意識もそちらに向かうので、活気が違うと現場では感じる。

義務教育の弊害かもしれないが、「何とか（学校が）してくれるだろう…」という意識の中で多くの学生たちが育って来ている…

本校は高校卒業者がほとんどだが、早い時期から理系・文系に分けられてしまうので、高校3年間で理系を学んだことがないという学生もいる。元素記号を中学校では習ったが、高校時代には全然習っていない。さらに今後は通信制高校に通う生徒が多くなり、自分が得意な分野だけを学んで高校を卒業した学生も入学することになる。福祉にしても医療にしても、理美容にしてもこれからの職業で大事なものは「人体」ではないだろうか。

(6) 教育環境

今の学生は新しい物好き。キラキラする新品が素敵で、そういう物に目がひかれがち。だが入学すると、キラキラだけがすべてではなく、長い間使い続けてきた物の良さも感じるのではないか。なので、なんでもかんでも新しい、キレイなものだけじゃないように思う。

モノを大事に使う大切さを教えないといけない。理美容師は道具がなければできない仕事。学生たちも道具をたくさん持っているが、大切にしない、雑に扱うということがあるので、厳しく指導している。サロンに入社すればそれは絶対ダメ。学生の間は良いが社会に出た際にはどうすべきかを私たちはもっと指導していかなければならない。

今の学生たちは想像することが苦手。教職員だけでなく卒業生が学校に来てくれた際にも道具の大切さについては伝えてもらうようにしている。言って聞かさないと自分自身で想像ができないのが現実。

(7) 学生の受け入れ募集

学費は地域の他校と比べてリーズナブル。

近年、高校から大学へ進学する人が増えている中で、18歳人口も減少し続けて、そこからさらに理美容の仕事を目指す生徒数は限られてくる。そんな中で本校では他校との違いをPRしながら、入学すればこのように将来なれるよと具体的に伝えている。

高校の先生は、大学に生徒を何人送り出したということが評価の1つになっている。だが、大学進学を目指して高校へ入学してきたとしても見極める時間が十分にあって、「とりあえず大学に進学しておけ」という指導ではなくて、「何が好きなの?」「理容?」「美容?」「調理?」そういう取り組みも必要ではないか。

学生募集という観点でもっと高校に入り込んでもいいのではないか。業界全体としても取り組むべき問題。

(8) 財務

学生数もここ数年、確実に増えており、財務的にも安定している。

(9) 法令等の遵守

特に問題なし。対応出来ている

(10) 社会貢献・地域貢献

私たちにとっては尼崎の街が常にかっこいい街、さわがしい街だなっという方が本当はいいのかなと思っている。そして私たちもこの尼崎の街の魅力を、また価値を伝えていく。ここ尼崎で修業している人は多いのではないかと思う。技術の街であるということは、本当は技術教育の街でもある。それを支える何か、ご支援をいただきたく思う。

尼崎市内の多くの中学生がトライやるウィークの理美容体験として本校に学びに来てくれている。また、これまでも尼崎城の関連イベントなどで協力しているし、近々も尼崎市商業観光課の方が来られて尼崎城でのイベントについて打ち合わせを行う予定。また今後もお話があればぜひ教えていただきいて協力していきたいと考えている。

地域の方々とのボランティア活動についても積極的に学生たち促していく、ボランティア精神についても意識づけしていきたいと思っている。毎年恒例の祭り際には学校の前に冷たいおしぼりを置いたりして協力をしていきたい。今後も協力する意図はもちろんある。

学生の皆さんにはすぐに結びつき難い部分でもあると思うが、イベント、例えばマラソン大会であれば鍼灸医やマッサージの方が常にスタンバイしている。なので学生の皆さんの技術発表の場として、社会貢献というよりも学校のPRとして何かを訴え、アピールできるものを地域の人たちへ伝えていく。それについては技術的にも能力的にもあると思う。

全体評価

学生が将来の道を見定めて、高い意識を持って入学してきて、真剣に日々の授業に向き合っている。

70周年を迎えた伝統のある学校。若い人たちが成長を実感しているからこそ長い間、継続できている。尼崎にあって唯一の理美容学校。そこを高らかにアピールしてもらいたい